

令和 6 年 度

文京区平和特派員事業

活 動 報 告 書



(ひめゆりの塔前にて)

文京区教育委員会

文京区平和特派員事業活動報告書

目次

あいさつ	1
1 代表生徒及び引率者名簿	2
2 事業日程	3
(1) 事前研修日程	3
(2) 実施日程	4
3 体験記録	11
(1) 実施期間中の記録	11
(2) 学校での振り返りの記録	18
4 「文京区平和特派員事業」代表生徒アンケートの結果	24
5 あとがき	27

あいさつ

令和7年は戦後80年の節目の年です。中学校の歴史の授業では、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの学習の中で、各地への空襲（東京大空襲等）、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下などについて学習を行っております。

現在、社会情勢が不安定な中、世界各地で起きている紛争等を対岸の火事ではなく、いつ自分にも降りかかるかわからない現実として捉えるとともに、世界平和を実現するための献身的な意志と協調的な態度を育むことは必須であると強く感じています。

文京区は令和6年10月13日に「文京区とうるま市との相互協力に関する協定」を締結いたしました。そのような縁もあり令和6年7月30日から8月2日に、文京区立中学校全10校の各校から2名ずつ代表生徒を選出し、合計20名を平和特派員として、一般住民を巻き込んだ悲惨な地上戦が繰り返された沖縄に派遣いたしました。

沖縄戦の体験者からの講話や、戦地となった沖縄で暮らす同年代の子どもたちとの交流などを通して、実感を伴う学びの場として、これからの世界平和を確立していく子どもたちにとってかけがえのない体験となったのではないかと感じています。

この活動報告書を通じて、生徒たちが直接体験から得た感想や考察を共有し、皆様も平和について改めて考え、行動するための一助になればと願っております。

令和7年2月

文京区教育委員会教育長
丹羽 恵玲奈

1 代表生徒及び引率者名簿

No.	学校名	代表生徒氏名
1	第一中学校	與那嶺 貫二
2		齋 かのん
3	第三中学校	松井 新
4		坂口 萌維
5	第六中学校	村上 凜
6		三上 明夏
7	第八中学校	永井 源太
8		五味 にこ
9	第九中学校	石田 織久
10		安藤 秀晟
11	第十中学校	新井 翔大
12		渋谷 さおり
13	文林中学校	荏戸 利紗
14		顧 弈煊
15	茗台中学校	千原 かなえ
16		小林 寛太
17	本郷台中学校	西村 寧々
18		千田 真央
19	音羽中学校	西 美咲
20		品川 尚賢

引 率 者	
第八中学校長	土井 佳奈
第八中学校主幹教諭	下田 久美子
第八中学校主任教諭	池田 祐紀
第十中学校主幹教諭	宮下 淳
教育施策推進担当課長	藤咲 秀修
教育指導課事務主査	菊池 日彦
教育指導課事務担当	久保 茜
総務部総務課	義浦 美樹

2 事業日程

(1) 事前研修日程

回	日 時	実施方法
		場 所
0	6月17日(月)までに実施	ワークブックへの書込み
		自宅
1	6月20日(木)までに実施	URLから動画視聴
		自宅
2	6月20日(木) 16時～17時頃	オンライン参加
		学校
3	6月28日(金) 16時15分から17時15分頃	対面実施
		シビックセンター5階区民会議室A
4	7月4日(木) 16時15分から17時15分頃	対面実施
		シビックセンター5階区民会議室A
5	7月12日(金) 16時～17時頃	オンライン参加
		学校
6	7月16日(火) 16時～17時頃	オンライン参加
		学校
7	7月23日(火) 10時～12時頃	オンライン参加
		自宅
8	7月26日(金) 10時～12時頃	オンライン参加
		自宅

事前学習の様子 (第3回及び第4回)



加藤教育長(当時)から平和特派員としての心構えや激励をいただいている時の様子。

代表生徒も身の引き締まる気持ちで聞いておりました。(写真上段)



事前学習では、オンラインでの学習に加え、対面では興味を持ったテーマを元に、ペアとなる生徒と活発な議論も行いました。(写真下段)

(2) 実施日程

7月30日(火)

時程	全体の行動
6:45	羽田空港に集合
8:05	羽田空港発 
10:50	那覇空港着
12:00	昼食(ステーキハウス88) 
13:55	<ul style="list-style-type: none"> ・あまわりパーク到着 ・うるま市との対面式  

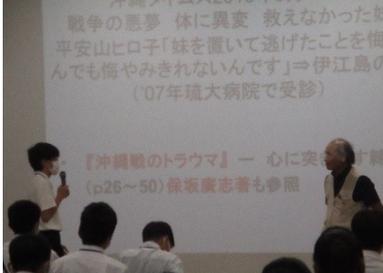
	<p>・エイサー体験</p>   	 
<p>17:45</p>	<p>ホテル着</p>	 
<p>18:30</p>	<p>夕食 (ホテル内にて)</p>	
<p>19:30</p>	<p>宿舎交流 (アイスブレイク)</p> 	 

7月31日(水)

時程	全体の行動	
7:00	朝食(ホテル内にて)	
8:30	ホテル出発	
9:00	嘉手苺ヌチシヌジガマ	
10:25	<p>・勝連城跡(世界遺産)</p>     <p>・あまわりパーク見学</p> 	  
12:05	<p>伊計ビーチ</p> <p>・昼食(BBQ)</p>	

	<p>伊計ビーチ ・海洋体験</p>  	  
18:15	ホテル着	
18:30	夕食 (ホテル内にて)	
19:30	<p>宿舎交流</p> 	 

8月1日（木）

時程	全体の行動
7 : 0 0	朝食（ホテル内にて）
8 : 1 5	ホテル出発
9 : 0 0	<p data-bbox="515 591 804 629">あまわりパークにて</p> <ul data-bbox="584 804 735 887" style="list-style-type: none"> ・ 平和交流 発表会     <ul data-bbox="560 1413 839 1451" style="list-style-type: none"> ・ 平和に関する講話 
1 4 : 1 5	<ul data-bbox="528 1697 756 1736" style="list-style-type: none"> ・ 昼食（優美堂） 

<p>15:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひめゆりの塔 平和祈念資料館 ・千羽鶴奉納 	  
<p>17:40</p>	<p>ホテル着</p>	
<p>18:30</p>	<p>夕食（ホテル内にて）</p>	
<p>19:30</p>	<p>宿舎交流</p>	  

8月2日(金)

時程	全体の行動
7:00	朝食(ホテル内にて)
7:50	ホテル出発
8:50	糸数アブチラガマ ・千羽鶴奉納
	  
11:30	昼食(首里天楼)
	  
12:10	国際通り散策(自由行動)
13:50	那覇空港着
15:50	那覇空港発
18:20	羽田空港着
18:50	解散

3 体験記録

(1) 実施期間中の記録

【7月30日（火）】

エイサー体験では三味線や太鼓、掛け声などの沖縄にぴったりの音楽と、独自の踊りや衣装などで、伝統的な沖縄の文化に触れることができました。二番までしかないけど踊りはとても難しく、覚えるのが大変でしたが、沖縄の方が丁寧に教えてくださったので、楽しく学ぶことができました。

対面式では大役を任せられ、挨拶をさせていただきました。とても緊張していたし、原稿をすべて完璧に覚えることができなかつたのでとても不安でした。自分なりにはうまくできたつもりです…終わったあとにいろいろな方が声をかけてくださり、「よかったよ」と言っていたのでとてもうれしかったです。

動画視聴では、まったく知らなかつた、勝連城跡や阿麻和利などについて知ることができました。

夜のレクの時間では、沖縄の子たちと遊ぶことができ、一気に仲が深まり、とても楽しかったです。これからもたくさん交流する機会があるので、ほかの子たちとも仲良くしていきたいです。

(第六中学校 村上 凜)

一日目は、那覇空港に到着したあと、ステーキハウスでハンバーグステーキをいただきました。スープやライスもついていて、とても豪華な昼食でした。昼食後はバスで移動をしてあまわりパークへ行き、うるま市の中学生と顔を合わせました。その後一緒にエイサーの体験をしました！はじめは盆踊りみたいな踊りなのかなと思っていただけ、想像の何倍も難しかったです。青年会の方が、丁寧に教えてくれたおかげで、覚えることができ、楽しく踊ることができました。着付けもさせてもらいましたが、浴衣に似ているようで丈の長さや、帯の結び方などが違ってなかなか着ることのできないものを着ることができて、すごくいい経験になりました。

また、阿麻和利についてのビデオを見ました。「阿麻和利」自体あまり知らなかつたけど、動画を見て、ある程度知ることができました。私は、阿麻和利はいい人なのではないかな？と考えました。

そして、バスでホテルに移動しビュッフェをいただきました。ここでは、野菜・肉料理・魚料理・フルーツなど、たくさんの料理があり、どれもおいしかったです。また、さんぴん茶という沖縄のジャスミン茶がありました。調べてみたところ、さんぴん茶とジャスミン茶は名前が違うだけで同じなんだそうです！

(第八中学校 五味 にこ)

今日は朝早く起きて大変だったけど、沖縄のうるま市の中学生と交流ができて楽しかったです。

明日も今日よりもっと仲を深められるといいなと思います。

(茗台中学校 千原 かなえ)

【7月31日(水)】

今日は、朝ヌチシヌジガマに行き、戦争当時の雰囲気について知ることができ、当時はとても大変だったと感じました。また、勝連城跡の上からの景色はとてもきれいで、またその地の歴史についても知れてよかったです。

最後のバーベキューと海洋体験はうるま市の人ともたくさん話すことができとても楽しかったです。とても暑いので体調に気を付けながら頑張りたいです。

(第一中学校 與那嶺 貫二)

今日は嘉手苧ヌチシヌジガマに行きました。ガイドさんの説明では、気温が年中27度ぐらいで、水が流れている。ここで出産した人がいる、ということです。また、嘉手苧ヌチシヌジガマでは、米軍に見つかった時石川という市長が初めて出て、「私が帰ってこなかったら出てはいけない、私が戻ってきたら出ていい」と周りの人に告げ、米軍に助けられたことから、多くの人命が救われました。また、この周りのガマでは集団自決があり、命をしのいだ場所という意味で、ヌチシヌジガマと名づけられました。鍾乳洞の中は狭く急で、水もあふれていたのが当時の人は生活が大変だったと思います。骨の跡はあまり見られなかったのが、命が助かったのだと思いました。

また勝連城跡を訪れました。石垣で囲われ周りは海でした。琉球王国の石垣で作られる城は、本州で石垣の城が作られるより100年ほど早かったそうで、貿易によって東南アジアの考えをいち早く取り入れたとわかりました。また、階段状の作りであったことや、阿麻和利が亡くなる前に、勝連城にあるガマから逃げたという伝説があったことに驚きました。

午後には、伊計ビーチに行きました。晴れていて、水も透き通り気持ちよかったです。バナナボートでは勢いが強く風を感じました。ガラスボートでは、いろいろな魚が見え、太平洋も見えました。また、初めて話した子と仲良くなったり、同じ幼稚園だった人を見つけたりと新たな発見がありました。

(第六中学校 三上 明夏)

那覇空港についてから二日目、前日の疲れを感じることなく向かって感動したのはヌチシヌジガマです。

言葉では表現しきれない美しさとその鍾乳洞の歴史（主に第二次世界大戦）や、ヌチヌジガマの奇跡的な構造に驚天動地でした。

その後、勝連城跡に到着して、石によって築かれたであろう城に技術的な面で当時の勝連の繁栄具合が垣間見えました。

そして海洋体験は一言で表すと”楽しい”です。

バナナ、ガラスボートの夢のような体験に、ある程度の自由に泳げた遊泳時間に満足しました。

ホテルに到着してから、発表スライドの最終確認を行っていましたが、正直言って心もとないです

総合して明日が本番と感じ、感動した日でした。

（第九中学校 石田 織久）

【8月1日（木）】

三日目は、自分が作ったものの発表をして、うまくいくことができました。そのあとに聞いた戦争体験者の話は、戦争の恐怖について色々と知らないことを知ることができました。ひめゆり平和記念資料館では、戦争の悲惨さが本当によくわかりました。特に、犠牲になった方達一人ひとりについて書かれた部屋が、とても印象に残りました。

明日は最後だけど、今までどおりしっかりと取り組もうと思います。

（第三中学校 松井 新）

うるま市の中学生と交流をしました。ペアの子と夏休みの時間も使って結構時間をかけて作ったので、ほとんど緊張せず、発表に臨むことができました。うるま市の子にすごいと言われたのがうれしかったです。うるま市のプレゼンを聞いて、沖縄戦の知らないところを知れてよかったです。また、グループで「平和のためにできること」について話しました。他のグループでも、差別をなくすことや、SDGsを達成するということを言っていました。

また、沖縄戦中に生きていた森根様の講話を聴きました。体験談を語ってくれたので、その当時の家族や周りの人の過酷さや悲惨さが伝わってきました。

昼食に優美堂でタコライスと沖縄そばとサーターアンダギーを食べました。うるま市の子からサーターアンダギーはひびが入っている方がよいと聞き、びっくりしました。

次に、ひめゆりの塔に行きました。千羽鶴を代表生徒が奉納してくれました。手伝ってくれた同級生のみんなに感謝の気持ちを改めて伝えたいです。ひめゆりの平和記念資料館では、ひめゆり学徒隊について時代の流れに沿って描かれていました。本当にこのようなことは起きる必要があったのかと思い、とても悲

しい気持ちになりました。資料館の本も買いました。事後学習に生かし、クラスのみんなや友達に伝えたいです。

(第十中学校 渋谷 さおり)

ひめゆり平和記念資料館で、実際に体験した方がその経験を話しているビデオや、亡くなってしまった方の顔写真、経歴、亡くなった経緯などが書かれていて、聞くに堪えないほどでしたが、それが本当にあったのだと思い、心が痛みました。

また、実際に使われていた道具なども見ることができました。自分が感じたことを忘れず、今後に生かしていこうと思いました。

(文林中学校 荻戸 利紗)

【8月2日(金)】

今日で全過程を終了し、家に帰ってきたところで平和特派員事業の現地学習が終わったことを実感しました。

今日、印象に残ったことは糸数アブチラガマの見学と壕の中での暗闇体験です。糸数アブチラガマの見学はこの事業で興味をもっていたアクティビティでもありました。壕の中は2日目に入った壕よりも圧倒的に暗く、入っていくのに不安を感じる暗さでした。中は涼しく水がぼたぼたと垂れてきて首などに当たるとびっくりし、不気味に感じました。ガイドさんの話を聞くだけでも当時の非常に残虐な状況が想像できました。自分が歩いている場所で実際に悲惨なことが多く起こっていたのだと思い、おののきました。

暗闇体験では脳症患者や破傷風患者などの重傷患者が運び込まれていたと思われる場所で5秒間電気を消し、暗闇体験をしました。先日の「ひめゆり平和資料館」での学びによると、脳症患者や破傷風患者などはガマの奥深くに引きずられていき、学徒隊は「あそこに行ったら戻っては来られないから決して近づくな」と言われていたそうです。そして、ガイドさんの話でもあった通り学徒隊は重症患者が運び込まれたところには立ち入り禁止でした。ガイドさんが「どうして学徒隊は立ち入り禁止だったと思う？」と聞いたとき、私は学徒隊が幼すぎて精神的につらくなってしまふからだと考えましたが、本当は違いました。衝撃的で、もっともショックをうけた理由でした。それは、学徒隊の目的は医療などを支えることであり重症患者など、助ける価値のない者とみなされてしまった兵隊を助けられないからでした。つまり、重症患者たちは治療もしてもらえず味方に見捨てられたことになります。そのことを知って暗闇体験をしてみると心がもちそうにないというか精神がつらいといえますか、絶望的な気持ちになり、戦争のことを学び始めてから初めて冷汗が流れていきました。ガマにいる間生きた心地が

しなかった感じでした。たった5秒間で多くのことを学び、体で感じた貴重な体験でした。

(第一中学校 齋 かのん)

沖縄では、平和学習として、平和の礎に行ったり資料等をみて新聞にまとめたりと本当に積極的に行っていることがわかりました。反して、話してくれる人が少ないなどもあるそうです。なので、今回講話を聴くことができ本当によかったです。

ひめゆりの塔では、本当に映像を見ているだけで泣いてしまう寸前なほどだったので、被害を受けた人たちや亡くなった人達は想像を絶するものだったと思います。

改めて、戦争をしてはいけない。自分からできることは積極的にすることが大切だと思いました。また、平和という定義を確認し、平和であることに誇りをもつ意識をしようと思いました。

(音羽中学校 西 美咲)

糸数アブチラガマに行きました。ヌチシヌジガマと違い観光地化していないので、よりリアルなガマの暗さなどを体験できました。ひめゆり学徒隊が治療の手伝いをしていたようで、その内容は私たちと同じぐらいの年齢がやる事とは思えないほど恐ろしいもので、それらをいずれ慣れて、こなしていくのもとても怖く感じました。当時、水も食料も、光でさえも少ないガマの中は、言葉に表せないほど不気味で、中から出てきて日の光を浴びたときにとっても感動しました。千羽鶴の奉納の際も色々な思いが頭をよぎりました。

この四日間、戦争について、とてもよく知ることができました。現地に行ってみないとわからないことがたくさんあり、平和について考える機会となりました。また、周りの人とも仲良くさせてもらって、楽しい四日間でもありました。みんな優しく、温かみがあり、話すのがとても楽しかったです。このつながりを大切にしたいと、強く思いました。

沖縄には東京にないものがたくさんあり、それらは私の心に深く刺さりました。またこのメンバーで沖縄に行って、楽しいことをたくさん経験して、平和についての考えを深めていきたいです。

この四日間、本当に楽しかったです。学びもあり、新しい仲間もできました。この体験は一生忘れることはないと思います。HTJ20のみんな、うるま市の中学生のみなさま、ご協力してくれたみなさま、すべての方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

(茗台中学校 小林 寛太)

【4日間を通した感想】

本事業の目的は大いに達成できたと思います。

目的を達成できたのは、糸数アブチラガマの見学や、ひめゆりの塔資料館が良かったからだと考えました。他にも、3日目の意見交流で、平和についてほかの人たちがどう思っているのかについて知れたからだと考えました。

ひめゆりの塔の証言本や、糸数アブチラガマでの暗闇体験などで感じたことを第三中学校の生徒や、家族、友達に伝え、平和な世界づくりに貢献したいと思いました。

(第三中学校 坂口 萌維)

今回の平和派遣事業を通して平和の大切さや永久平和の実現に向けて何をやるべきか改めて考え直すことが出来ました。なぜならば、アブチラガマや、ヌチヌジガマでは、戦時中の人々の悲惨な状況について考え、またその当時の沖縄の人々の苦しい思いについてガイドの方からの話を聞いて感じる事が出来、また、ひめゆりの塔の資料館では、戦時中の人々が感じた思いについて深く知ることが出来たからです。

今回学んだことを学校で多くの人に伝えたいなと感じました。

四日間、今までに感じたことがない経験をする事が出来て本当に良かったです。ありがとうございました。

(第九中学校 安藤 秀晟)

平和特派員として沖縄まで行き僕は沖縄の人とも文京区の人とも色々な人と触れ合うことができました。僕は初日すごく不安でした。飛行機のチケットがランダムだと聞いた時、品川君か與那嶺君の隣じゃなかったらどうしようと思いました。案の定、知らない人と隣になってしまいどうしようと思いましたが、皆さん優しく話しかけてくれてすごく安心しました。

エイサーを通して沖縄の文化に触れることができました。また現代のダンスにはない難しさがあり楽しかったです。また、エイサーを通して特派員の目標の沖縄の人と一緒に触れあうは果たせました。ここで得たコミュニケーションをこれからの社会でも生かしたいです。

二つ目の目標の沖縄の平和を学ぶについては、大いに達成できたと思います。ひめゆりの塔に行ったときは、これだけひどい扱いを受けていたのかと思いました。あまりの悲惨さに気持ち悪くなってしまいました。ですが、これは絶対見なければいけないものだと思います。そして、これを次の世代に語り継いで戦争を起こさない社会を作っていくのが大事だと思います。

糸数アブチラガマでは、痛がっていた患者の悲鳴が聞こえてくるようでした。この経験を生かして学校生活で積極的に語り継ごうと思いました。

(第十中学校 新井 翔太)

私は、この平和特派員事業を通して、戦争の恐ろしさ、また平和の大切さについて改めて実感しました。

この平和特派員事業で特に印象に残ったのは糸数アブチラガマです。私は、ここで戦争の恐ろしさについて深く知りました。この平和特派員事業を受ける前は戦争の恐ろしさとは、たくさんの方々が亡くなってしまうことや、怪我をすることだと思っていました。しかし戦争の恐ろしさはそれだけでなく亡くなり方や体の怪我だけではなく心の怪我也有ということを知りました。また戦争は人を人ではなくしてしまうということを糸数アブチラガマの体験を通して体で実感し戦争は恐ろしいという言葉だけでは足りないほど怖いものだということがわかりました。

だからこそ、これからはずっと平和であってほしいと強く思いました。しかし戦争はだめだということを思っている人は多くても、日本人の全員が戦争について強い思いをもっているわけではないというのが現状です。戦争を経験していない私たちだからこそ戦争の恐ろしさについて深く知る必要があると思いました。

だからこそ私は、より多くの人に戦争の恐ろしさ、今の平和のありがたさについて知ってもらうために今回学んだことをたくさんの人に広めようと思いました。また今回の平和特派員事業を通して沖縄の中学生と仲を深めることができました。育った環境が全く違う人たちと話すのは価値観の違いなど新しい発見が多く学びになりました。

(本郷台中学校 西村 寧々)

今日の世界平和についての交流で思った以上に意見を言えたり、他のグループでも自分たちにはない考えがたくさんあって、それがいい悪いとかなないけど、いい考え方がたくさんあったし、より深く考えることができた。学校に還元するときたくさん意見を発信できそう！

今日は目標の写真 1000 枚を達成することができたし、資料をたくさん手に入れることができたから、よかった。

沖縄ならではの、タコライスや、沖縄そばも食べられて、とってもおいしかった。朝ごはんは 14 時のお昼まで持つように、たっくさーん食べて、夜ご飯はあまりおなかがすいていなかったけど、今日で最後の夜ご飯だったから、ケーキを 21 個食べて、大好物のトマトも 10 個食べた！それこそ、平和だからこそできる幸福すぎるから、いろんなことに感謝って感じで、たくさん平和について、感謝の気持ちをもつことができた。

ひめゆり平和祈念資料館では、戦争を体験した人が戦後の状態を語っている

動画や、資料がたくさんあって、ゆっくり、たくさん見ることができて、改めて深く過去を知ることができた。インターネットや本だけでなく、資料館に行くことで、正確な情報を得て、怖さを実感することができたからよかった。本を買ったから事後学習で使いたいと思う。千羽鶴を奉納できたこともとてもうれしかった！

今日もうるま市の子とたくさん話すことができて、先生たちとも笑うことができた。まさに平和で幸せって感じで、今回のテーマとぴったりだなあと思った。

あとは、朝から日の出を見られたし、沖縄の天気とかめっちゃ大好きだから、沖縄の良さにもたくさん気づくことができてよかった！！

言葉にしきれないいろいろな感情や、感動を感じられて、とてもいい学びをして、最高の沖縄生活ができた！

(本郷台中学校 千田 真央)

(2) 学校での振り返りの記録

全体的に時間が足りなかったのが心残りでした。

沖縄で学んだ4日間のことを10分で伝えることは難しく、所々端折ってしまったことです。

それでもみんなに伝えたいことを厳選して伝えられたと思います。

- 沖縄の自然の美しさ、琉球特有の食べ物等
- 事前学習の成果、事後発表
- 戦争を学び、今後に生かしていくこと。
- 平和の大切さ。
- 第2期生につなげたいこと。

沖縄の生徒たちと交流して感じたことや施設の整備など話したいことはまだまだたくさんありましたがそれらは自分が今後学校生活の中で学校の先生や友達に自発的に伝えられたらと思います。

パワーポイントを用いた報告では現地でとった写真などを多く挿れ、みんなが行ってなくても少しでも想像してもらえる発表にしました。報告で特に力をいれたのは4日目のアブチラガマの見学です。あえて真っ暗闇のスライドをいれてみんなに当時の状況を想像してもらえるようにしたり、オノマトペを使って印象に残るようにしたりしました。本当はもう少し時間がとれたらパフォーマンス型の報告にして見ている側を飽きさせないようにしたかったとも思いました。それでも、最初の事前学習でも言われたように「いかに戦争を自分事として捉えるか。」を大切にしてパワーポイントを作成しました。そのおかげもあってか、発表が終わった後にお友達や先生方に「すごく良い発表だった。」と言われて10分のなかでも内容の濃い報告ができたと思います。

私は、今回この事業に参加したおかげで今まで興味をもっていた「戦争」という話題を興味で終わらせずに「平和」というテーマまで引っ張ってこられたと思います。それ以外にも自分の住み慣れている東京から出て沖縄の雄大な自然や文化と触れ合うことで自分の視野がまた大きく広がる経験ができたと思いました。また、世界平和について本気で考えられる仲間がたくさんできたことも参加した利点です。

改めて、この夏、自分が変わったと思える体験がたくさんできた文京区平和特派員事業をこれからも周りに伝え、素敵な4日間を忘れないようにしたいです。

そして、事前学習を支えてくださったり、現地の研修までついてきてくださったりして私たちの安全を守ってくれた学校の先生方や教育委員会のかたに感謝申し上げます。生徒だけではできないところを配慮してくださったことで充実した4日間が送れました。

お世話になった先生方、教育委員会の方々、現地での生活を支えてくださった方々、すてきな仲間たち、本当にありがとうございました！

(第一中学校 齋 かのん)

六中では、特派員の2人以外にも平和プロジェクトというチームのメンバーと協力して発表をしました。内容は、沖縄派遣で学んだこと、六中の2年生にとった平和に対するアンケート結果、平和について考えた道徳授業の進行の様子、私たちが平和の実現のためにできることです。

平和とは何ですか？と聞くと抽象的で考えるのはとても難しいです。そこで、道徳授業で2年生が考えたことや、ガマやひめゆりの塔の見学を通して感じたことを報告し、一人一人に自分なりの平和への考えをもってもらいました。実際の写真を多く使うことで、実際に当時の様子を考えてもらうことができ、当時の人の苦しみや辛さを自分事としてとらえてもらうことができたと思います。

私たちが出した平和への答えは、「平和を色々な視点で見れば平和実現の方法を見つけられる」ということです。道徳授業や夏の平和に関してのレポートを読み、みんな様々な視点で考えていましたが、最終的にはどれも平和につながっていました。戦争をとめよう！差別をなくそう！といったことが平和実現の方法ではありません。過去には病気で多くの人々の命が奪われているように、病気にならないことなども平和であることにも気づきました。

平和の対義語は一つではありません。それぞれが色々な視点をもって平和を捉えれば、必ず平和実現の方法を見つけられます。このようなことを見ている方に強く伝えることができました。

今後、特派員を中心とした平和プロジェクトでは、平和に関する意見交流の場をつくったり、来年の2年生にこのプロジェクトを引き継いだりしようと考え

ています。今回の貴重な体験を無駄にしないようさらに六中に還元していきます。

(第六中学校 三上 明夏)

僕が今回の発表で工夫したことは、話すときにいつも声の抑揚が多いため、よく「変だよ」と言われてしまう。だから、今回抑揚を少なくするために、落ち着いて話すことを意識した。そうすることにより沖縄で経験したことを伝えることができた。抑揚が多すぎるとみんなはどこが大切なのか、わからなくなってしまう。それにより、伝えなかったことが伝わらなかつたりもする。本番、抑揚を意識したことにより、リハーサルよりもうなずいている人の割合が多かった。

その中であった課題としては、前で話しているのに原稿を見るのに集中してしまっただことだ。原稿を見てしまっていると声が下向きに出てしまうので、少し聞きづらくなってしまう。マイクはあるが、原稿をずっと見るのはだめだと思った。これまでもそのようなことはよくあった。今回の発表でそのことに気づいた。

今回、このようなことがあったことを忘れずに、今後の発表する場面では抑揚を大切なところにだけ入れるようにし、下を向かず、前を向いて発表しようと思った。

(第八中学校 永井 源太)

今回は、学習発表会で、発表を行いました。

スライドは、イラストやアニメーションを加えて聞き手に伝わりやすくなるように工夫しました。また、Gammaでの暗闇体験を再現するために体育館の照明を全て消し、暗闇を作って、私たちの体験したことを感じてもらいました。現地のように真っ暗というわけにはいかなかったけれど、戦争が行われていた時にはこれが当たり前だったということが十分伝わったのではないかなと思います。

今後私たちは「当たり前を大切に」して生きていき、戦争を起こさないための最善を尽くす必要があると全体を通して伝えることができました。

現地に実際に行ってみないとわからないこともたくさんあるけど、私たちが伝えられる限りのことを伝えることができました。

来年は、今の一年生が行くことになりましたが、私たちの発表を聞いて私のところへ質問に来てくれたり、「行きたい」と言ってくれていた子がいたので、私たちの想いが届いたのだと思います。よかったです

今年度の事業はこれで終わりとなってしまいますが、この事業は、行って発表して終わりではなく、得たことを最大限に活かし、戦争のない世の中を作っていくところまでがゴールだと思っています。

これからも戦争をなくすためにはどうしたらよいかを、考え続け、平和な世

界を作っていきたいです。

(第八中学校 五味 くにこ)

〈工夫したこと〉

パワーポイントのスライドは興味をもったことがない人のために文字よりも写真を多く入れ、見やすくしました。また、オープニングで沖縄音楽のBGMを流したり、方言を途中に入れたり、皆に沖縄の雰囲気味わってもらいました。

〈みんなの反応〉

みんなとてもよい反応を示してくれました。クイズを複数出した際、体育館で大勢いる中でも声を出して答えてくれた人がたくさんいました。

〈課題となったところ〉

発表用のスライドを二人で作る際、発表する際の分担まで決めておくべきでした。あるいは、準備時間が部活動等で限られるため、あらかじめそれぞれが分担を決めておいて内容ごとに別々にプレゼンを行うとよかったのではないかと思います。

〈今後どうしたいと思ったか〉

学習発表会のプレゼンだけで還元するのではなく、学校の授業等で沖縄を身近に感じられる機会があればよいと思います。例えば、エイサー体験を体育や総合の時間に行ったり、給食に沖縄の食文化を取り入れたりする等ができるかと思っています。

(第十中学校 渋谷 さおり)

20分という限られた時間の中で、四日間のうちに学んだことを最大限伝えるために話の構成を工夫しました。沖縄の自然豊かな環境、伝統文化、きれいな海、うるま市の中学生との交流のこと、そして戦争、平和について学んだこと、感じたこと、そこから生まれた思いなどについて発表しました。

特派員の二人でプレゼンを分担し、私が「平和」について発表することになったときは写真が少ない中、自分が実際に目で見て、自分の肌で感じたことをどう言葉で説明、表現しようか悩みました。ですが、プレゼンするにあたって頭の中にあつた自分の感想や経験を言語化してみると、自分の考えが整理されるうえ、とても良い振り返りになりました。発表しているときも一緒に戦争、平和についての考えを深められていると感じました。工夫を凝らしたプレゼンを発表し終わった際、先生方から「素晴らしいプレゼンでした」と言っていただき、私の「平和」についての考えに共感してくれた生徒が「戦争はダメなのだ」という強い意志をもってくれました。

これらの反応を受けて、自分が四日間を通して感じた、新しく生まれた思いを

たくさんの人々に伝えられたと実感することができました。

今回は「平和特派員事業の報告」という形で生徒、先生方に発表をしましたが、今後は日々の生活でも周りの人を巻き込んでさらに考えを深めていければと思います。

今回の事業に参加していなければ私の戦争や平和への関心はここまで深まっていなかったでしょうし、これからも探求を続けたいとは思わなかったでしょう。

また、沖縄という知らない土地で、知らない人たちと意見を交わし、戦争というものを身近に感じるという貴重な体験ができたことはこれからも記憶にとどめておきたい経験になりました。

自分の視野を広げてくれた特派員の仲間、うるま市の生徒たち、様々なことをサポートしてくださった教育委員会の方、先生方には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

(文林中学校 荏戸 利紗)

各クラス20分ずつ、パワーポイントを使って以下のことを発表しました。

- ①ヌチシヌジガマ
- ②アブチラガマ
- ③平和記念資料館
- ④沖縄の魅力

私は「沖縄の魅力」について発表しました。4日間で経験したエイサーなどの伝統芸能や食事、動植物などを動画や写真を使って現地の様子がわかるように紹介しました。特に、エイサーは実際踊っている場面を見せることで、興味をもって見てもらうことができました。

①、②についてもガマの全体図を見せながら沖縄の歴史やそれぞれのガマの様子、自分たちと同世代の人々に与えられたつらい役割について話しました。③では、女子中学生が過酷な環境の中で医療行為の手伝いをしなくてはならず、そのつらさを伝えられるように具体的なエピソードを話しました。聞いている人たちは初めて聞くことも多かったようで、とても驚いている様子でした。また、分かりやすくするためにクイズをいれて発表したのですが、みんな積極的に参加してくれました。

学校生活で「日々感謝するように」と道徳の授業を中心に言われることが何度もありました。ただ、何に感謝すればいいのかわからないことが多かったのですが、平和特派員事業に参加できたことで、当たり前のことが当たり前ではないということに気がつくことができました。

これからも沖縄の歴史をもっともっと学び、学校だけではなく様々な人に伝えられるように学びを深めて行きたいです。

最後に文京区の教育委員会の皆様、先生方、4日間ありがとうございました。
うるま市の先生方や生徒の皆様も本当にありがとうございました。

(文林中学校 顧 奔煊)

工夫したことはパワーポイントの作成。たくさんの写真の中から見やすくイメージが伝わりやすいものを選ぶのにとっても時間がかかった。

発表をするときに沖縄の人たちに教えてもらった沖縄弁でのあいさつを自然に言えるよう頑張って練習した。

発表の終わりに「来年、沖縄平和学習に参加したい人？」と一年生に聞いたときにだいぶ多くの方が参加したいと言ってくれていた。発表の成果がでてうれしかった。

次に沖縄に行く代表生徒が決まったら、一期生としていろんなことを教えてあげたい。

(音羽中学校 品川 尚賢)

4 「文京区平和特派員事業」代表生徒アンケートの結果

1 アンケートの概要

対 象 「文京区平和特派員事業」代表生徒20名

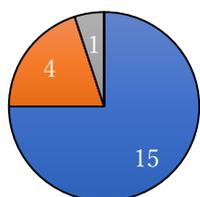
回答者数 20名

実施期間 令和6年8月21日～令和6年9月10日

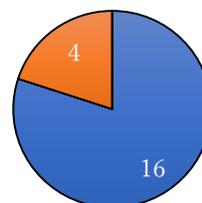
実施方法 代表生徒が web 上のアンケートフォームへアクセスし、回答を行った。

2 アンケートの結果

- (1)「エイサー体験」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)
- (2)「嘉手苅ヌチシヌジガマの見学」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)

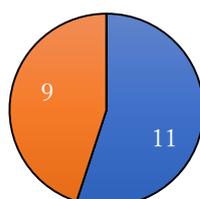


■4 ■3 ■2 ■1

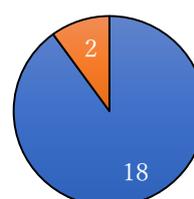


■4 ■3 ■2 ■1

- (3)「勝連城跡の見学」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)
- (4)「海洋体験」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)

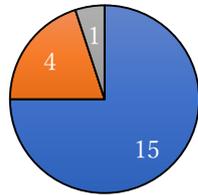


■4 ■3 ■2 ■1



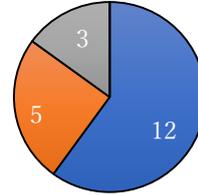
■4 ■3 ■2 ■1

(5) 「平和交流（スライド発表・意見交換）」の満足度はどれくらいですか。
 (満足度が高い順に 4-3-2-1)



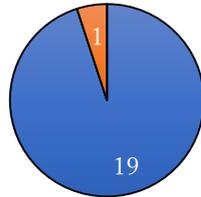
■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(6) 「平和に関する講話」の満足度はどれくらいですか。
 (満足度が高い順に 4-3-2-1)



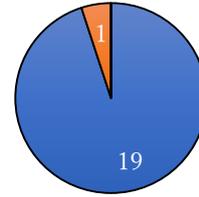
■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(7) 「ひめゆりの塔・資料館訪問」の満足度はどれくらいですか。
 (満足度が高い順に 4-3-2-1)



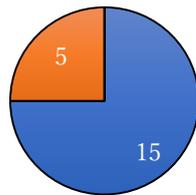
■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(8) 「糸数アブチラガマの見学」の満足度はどれくらいですか。
 (満足度が高い順に 4-3-2-1)



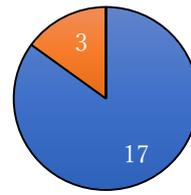
■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(9) 「国際通り散策」の満足度はどれくらいですか。
 (満足度が高い順に 4-3-2-1)



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(10) 「夜の宿舎での交流」の満足度はどれくらいですか。
 (満足度が高い順に 4-3-2-1)



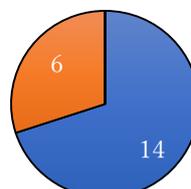
■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(11) 「千羽鶴の作成・奉納」の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



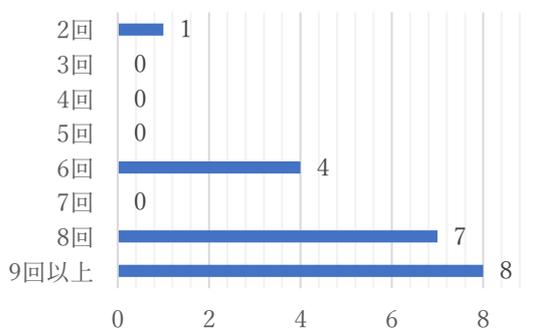
■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(12) 事前研修の満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)

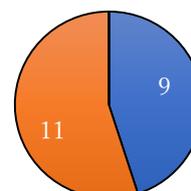


■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(13) 事前研修に必要な回数は何回だと思いますか。

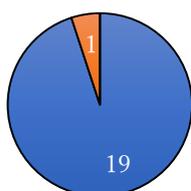


(14) 作成したスライドの満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

(15) 平和特派員事業について、全体的な満足度はどれくらいですか。
(満足度が高い順に 4-3-2-1)



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

5 あとがき

文京区の令和6年度重点施策の一つである「文の京」総合戦略「共に生きるための豊かな心と行動力(共生力)の育成」に基づいて、新規事業として実施されたこの平和特派員事業の目的は、以下の2点です。

- ①平和に関する学習と沖縄への実地研修を通して、「世界の恒久平和」と「永遠の繁栄」を願い、平和の確立に向けて努力する態度を養うこと。
- ②うるま市の生徒との交流、各施設の訪問、体験学習等を通して、沖縄県の歴史と文化に関する理解を深めると共に、文京区の歴史や文化を尊重する態度を養うこと。

沖縄への平和特派員第一期生の代表生徒は、2人一組のグループで平和に関する学習の探究課題を設定して、計8回の事前研修を行いました。テーマは「戦争の悲劇をなくすために」「経済成長から平和な未来へ」「世界平和について考える」等々、3日目に実施した各グループのプレゼンテーションでは、13分間の持ち時間を全て使って調べてきた内容を相手にわかりやすく熱心に伝える姿がありました。

世界遺産である勝連城やひめゆりの塔、糸数アブチラガマなどを見学して沖縄県の戦争の歴史について学ぶとともに、エイサー体験や海洋体験を通して、文化や自然について触れあえる大変有意義な機会となりました。何よりも、うるま市の大歓迎を受けて現地の中学生20名と交流した4日間は、この夏の忘れられない大切な思い出となり、全員がこの事業の目的をしっかりと果たすことができたと感じています。そこで得た平和特派員としての経験を各校に還元しました。

最後になりましたが文京区の中学生に、このような貴重な機会を与えてくださった文京区教育委員会と関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和7年2月

文京区立第八中学校長
土井 佳奈

発行年月 令和7年2月

発行・編集 文京区教育委員会
教育推進部教育指導課

〒112-8555 東京都文京区春日一丁目16番21号

電話 03-5803-1300(直通)